

Funai Overseas Scholarship 第一回留学報告書

田中 秀宣

2014年3月に京都大学 理学部 物理系 を卒業し、同年9月よりHarvard University, Applied Physics(応用物理学)のPhD課程に進学予定の田中 秀宣です。第一回留学報告書では、私が物理学者を志してから現在にいたるまでの過程を簡単にご報告させていただこうと思います。

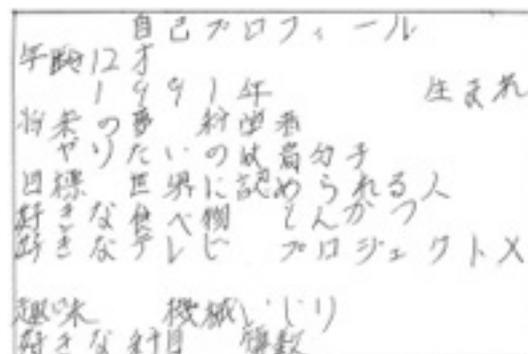
好きなこと

私は幼いころから身近な自然、そして宇宙が大好きでした。望遠鏡を覗き遠い宇宙を見ても、虫眼鏡で道端の草を見ても、それぞれ想像もしていなかった”新しい世界”が広がっているということが理屈抜きにワクワクして仕方なかったです。

なので物心ついた時からずっと

「科学者になり知的冒険をしながら世界中を飛び回りたい」という夢がありました。

それは今でも変わらず、とにかく知らなかった世界に触れること、そして、その瞬間に目の前に新しい世界が開け”自分の価値観、世界観がグルッと回る瞬間”が最高に楽しいです。



小学校の卒業文集より

この興奮、そして喜びは

•物理を勉強していて、最初はただの数式と論理の羅列に見えていたものが、凄くシンプルなイメージに落とし込まれ、手に取るように分かったとき

•研究していて新しい世界を人類で最初に切り開き、目撃したとき
(※この喜びを味わうのはこれからです!!)

•京都の街で世界中から集まる観光客に勇気を出して話しかけ、朝まで飲み明かし新しい世界を見せてもらったとき

•ベトナムの農村に行き、自分と全くことなる環境下でもハツラツと生き生きと笑っている人々を見たとき
これら全てに共通する感情だと思います。

そんな、**新しい世界を見てみたい私にとって**

「新しい国の、新しい街で、世界中から集った研究者に囲まれ、その中で新しいことを学び、そしていつか私も新しい世界を人類で最初に発見し目撃する」という海外のPhD課程はどこまでも魅力的に思えました。そして、この選択肢を知ったからには挑戦せずにはいられませんでした。

学部時代

そんな「物理学者になって、新しい世界を見てみたい」という思いから私は京大理物(理学部物理)に進みました。学科内は「みんなで物理をやろう」という空気に満ちており、やる気あふれる同期達に刺激され、友人達と共に多くのことを学びました。

理物では3回生になると課題演習という授業があり、半年ずつ異なる研究室の指導のもとで研究プロジェクトに参加できます。私は「高温超伝導」、「原子核物理の加速器実験」を選択し多くのことを学ばせて頂きました。

勉強を進めていく中で「量子力学的な世界に少しでも"感覚"を持ってみたいな」と思い、超伝導現象を含む凝縮系の物理という分野に強く惹かれました。そして卒業研究では凝縮系理論グループに所属し、超伝導現象について勉強を進めると共に、実験にも興味があったので4回生の前期から実験系の研究室にも無理を言って居候させて頂き実験を始めました。



京都大学 時計台

出願

4回生の一年間、周囲の友人達が院試ゼミに没頭しているなか、一人で別の進路を模索していると、孤独に感じるときもありました。留学準備中、「日本にも素晴らしい研究機関はいっぱいある。なぜわざわざ苦労してアメリカに行くのか?」という疑問にぶち当たる度に思い返していた言葉があります。それは学会で出会った「MITでPhDを取得したイスラエルの60歳くらいの教授」がおっしゃっていた

I am sure that you can get first rank education also in Japan, but if you are curious about studying abroad and will have a chance to do it in a top university, I think that this will offer you a unique experience for life. I still regard the 6 years I spent in Boston as one of the most exciting period in my life. It is different than coming to the US as a post-doc

という客観的な言葉です。将来、思い返した時に自分の20代を"the most exciting period in my life"と形容できるように過ごしたいと自分を奮い立たせ、なんとか出願にこぎ着けました。

出願を振り返って"強み"になったな、と思えるのは

- ①課題演習、卒業研究を通じて直接指導して頂いた世界的に活躍なさっている先生方に推薦状を書いて頂いたこと。
- ②出願前にFOSの奨学生に選んで頂いたこと。
- ③出願先とコンタクトをとる際に、Youtubeに自己紹介動画をアップし「基礎研究能力、英語でのコミュニケーションスキル」をアピールできたこと
(合格後訪問した際にHarvardの先生に動画を褒めて頂きました！)
だったと思います。

進学先の決定

以上の過程を経て、最終的に5つの大学院からオファーを頂きOpen Houseに参加し、初めてのアメリカを経験しました。

UC Berkeley(Physics)のOpen Houseでの夕食会に参加した際ジョージ・スムート先生(2006年ノーベル物理学賞受賞)と素粒子理論の村山 斉先生が同じテーブルで宇宙論の議論しているのを聞きながら、「凄いところに来たな」と感動したのを覚えています。

UC BerkeleyとHarvardが両校共とても魅力的で2月、3月と2度Berkeleyに足を運び、返答期限当日まで迷いました。最終的には私が研究してみたい分野の先生がより多く集まっていて、Harvard-MITが横並びになり共に手を携えながら研究、教育を行っているボストンの街でPhD時代を過ごしてみたいと思い、Harvardへの進学を決めました。



Harvardのキャンパス

応援して頂いた方々への感謝

以上、進学校決定までを簡単にまとめさせて頂きましたが、その過程で数えきれないほど多くの方々に励まされ、お世話になりました。

面識が無いのにも関わらず、メールで相談に乗ってくださったり、訪問した際は快く宿泊させてくださったPhD留学の先輩方には本当にお世話になりました。

振り返るのはまだ早いですが、学部時代に共に勉強した友人達にも多くの事を教わり、常に刺激を貰っていました。ありがとうございました。

研究、教育と大変お忙しい中で、直接研究を指導していただいた上に、二つ返事で推薦状の筆をとって下さった京大の先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。

奨学生のことを本当に親身になって応援して下さっている船井情報科学振興財団の皆様、本当にありがとうございました。出願直前の11月に頂いた奨学金の合格通知は暗中模索の中で一筋の希望の光となりました。

そして、せっかく東京に実家があるのに「突然京都に4年間行ったかと思えば、今度は5年以上アメリカに行ってしまう」身勝手な私を許してくれる、尊敬してやまない父、温かく見守ってくれる母、仲の良い弟、常に味方で居てくれる祖父母に心から感謝しております。

最後に

多くの方々に応援して頂きながら"20代の有り余る体力と青春"を全て捧げて研究に打ち込めるという機会を頂いたことを本当にありがたく、そして幸せに思います。常に自然を愛する心、科学を尊敬する心、そして無邪気な好奇心と遊び心を忘れず真剣に精進していく事をここに誓います。



船井理事長と褒賞式にて